

# デマンド型タクシーと空き店舗を 利用した高齢者に優しい公共交通

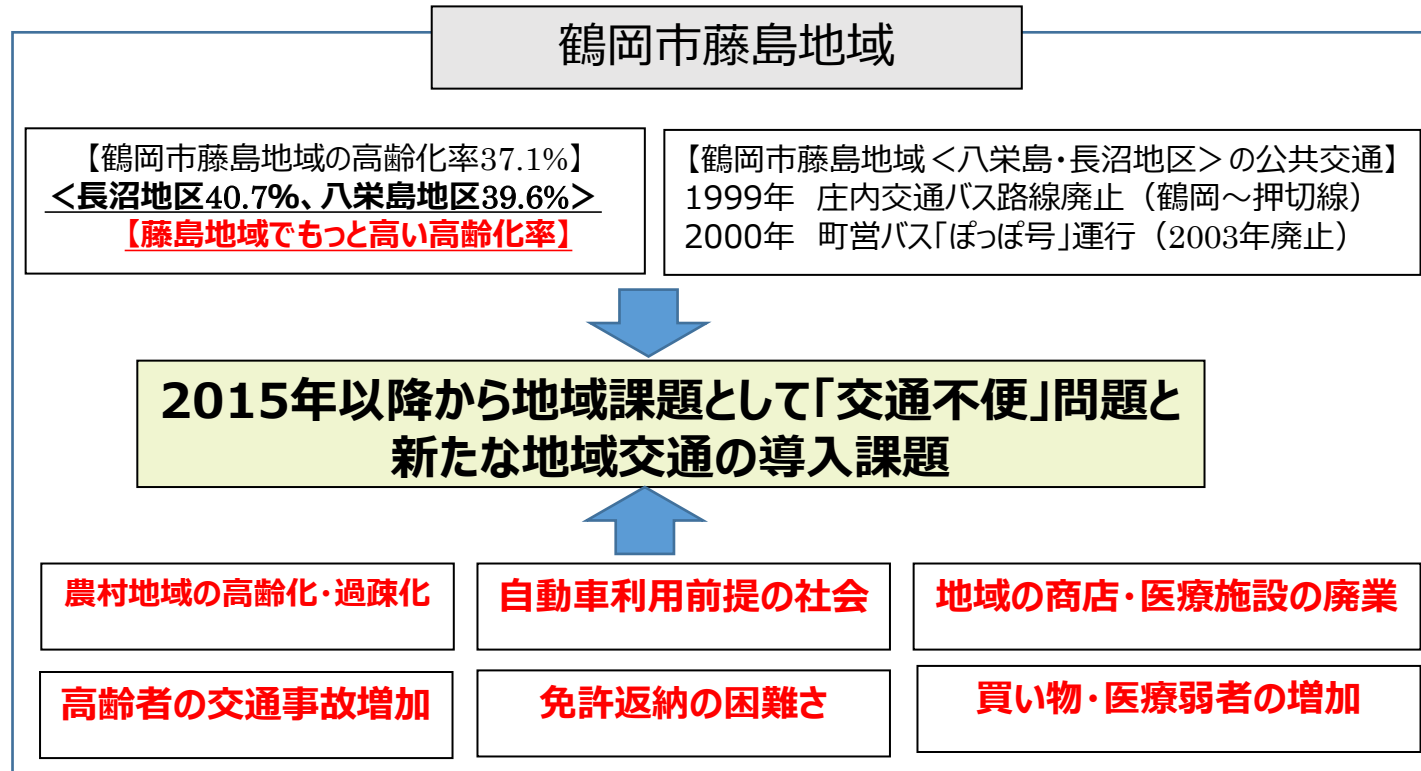
---

山形県鶴岡市 × 大東文化大学 社会学部 阿部ゼミ

# 山形県鶴岡市 × 大東文化大学社会学部 阿部ゼミ

## 【デマンド型タクシーと空き店舗を利用した高齢者に優しい公共交通】

### 1. コロナ禍の中でのゼミ活動



●鶴岡市藤島地域は、1999年に庄内交通（鶴岡～押切線）が廃止され、それ以降、地域公共交通空白地域となっている。

●藤島地域で最も高齢化率が高いのは、長沼地区40.7%、八栄島地区39.6%。

●自動車利用が前提の農村地域での高齢者の交通事故の増加と自主返納の困難があり、運転できない・運転しない高齢者の増大。

●地域の商店・医療施設の縮小・廃業による、目的地の遠隔化と買い物・医療弱者による地域住民の移動の確保の問題化。  
「デマンド型タクシーを活用した高齢者に優しい地域公共交通体制の構築」の提案へ。

山形県鶴岡市 × 大東文化大学社会学部 阿部ゼミ  
【デマンド型タクシーと空き店舗を利用した高齢者に優しい公共交通】

1. コロナ禍の中でのゼミ活動

コロナ禍の中での大学生活

- ⇒前期授業の開始延期〈5月中旬〉
- ⇒オンラインによる授業開始
- ⇒未だに、ゼミ生全員とは一度も会えず



宿泊を伴う  
学外活動禁止

鶴岡に行け  
ない辛さ

2. 住民意識アンケートの実施と分析（2月実施）

【長沼地区・八栄島地区に居住する60歳以上の方】

回収率 長沼地区451人、八栄島地区392人の合計843人  
有効回答数823(配布数に対する有効回答率91.0%)

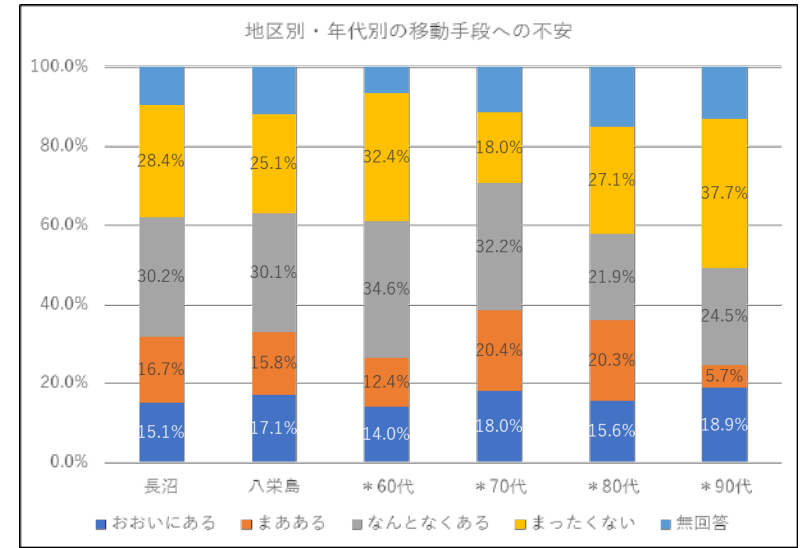
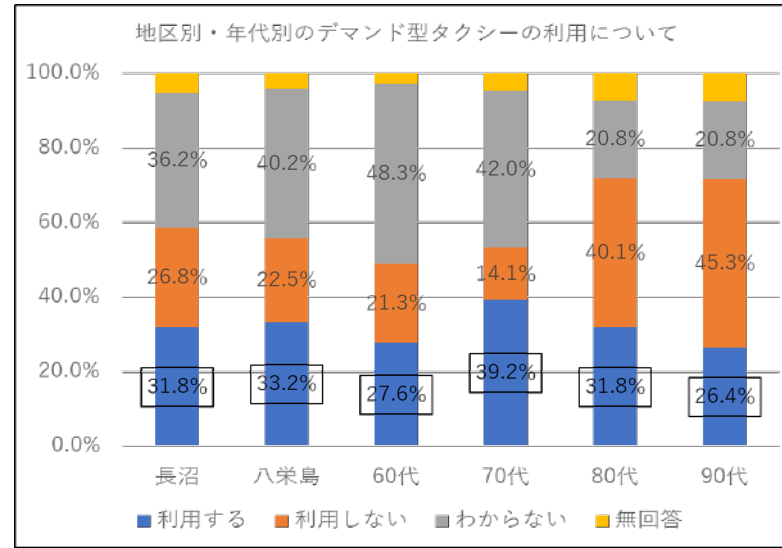
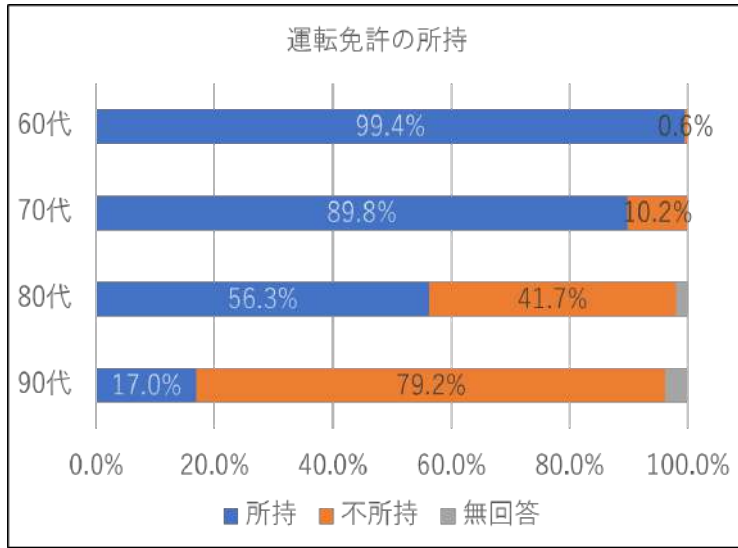
⇒70代以上ではその半数が「運転が不安になったら」返納を  
考えていた。

⇒半数以上が、今後の移動手段に不安を抱えていた。

⇒自由回答では、数値には出てこない、様々な今後の移動手段への不安が書かれていた。

⇒【デマンド型タクシーを利用しない】人には「免許を持っていない」人が全体より多かった。すなわち、免許を持っていないから利用したではなかった。おそらく、免許を持っていない人は、元々車に依らない生活・行動パターン(送迎等)のため、特にその利用の意義を見いだせていない(他の代替手段がある)と思われる。

⇒利用したいと答えたのは「夫婦のみ」世帯が多かった。



### 【運転免許について】

70代以上ではその半数が「運転が不安になったら」返納を考えていた。

### 【デマンド型タクシーについて】

3割が「利用する」と答えている。特に70代での「利用する」が4割。一方で、日常的に運転を行う60代の半数が「わからない」と答え、送迎体制がある90代では「利用しない」が4割強となった。利用目的は、60~70代は、「買い物」、80~90代は「通院」。その用途によって、年代によって異なる利用時間設定が必要である。

また、目的地も長沼地区は、「藤島地域」のみならず、鶴岡市外である「余目方面」、「三川方面」が強い、一方で八栄島地域では、「藤島地域内」・「鶴岡市街地」の傾向が強い。

- 親族でも実際は、送迎を頼みにくいという本音
- 生活圏の違いから、市外を跨ぐルート必要性
- 4割の「利用するかわからない」潜在層の取り込み

# 山形県鶴岡市 × 大東文化大学社会学部 阿部ゼミ 【デマンド型タクシーと空き店舗を利用した高齢者に優しい公共交通】

## 3. オンラインによる鶴岡市との繋がり

・鶴岡市役所とは、6月にはオンライン体制を構築



・住民意識アンケート報告会をオンラインで開催(6月14日)  
・デマンド型タクシー導入と調査分析から導いたルート提案



・オンラインによる打ち合わせ、交流会などを実施  
・ゼミ成果報告会(学部イベント)では、東京と地方とのコロナへの意識調査<鶴岡を含む10県以上の方に聞き取り>



現地とのオンラインによる継続的な交流体制の構築

### 鶴岡の長沼、八栄島地区

## デマンド型タクシー提案

鶴岡市藤島地域の長沼、八栄島地区での地域公共交通導入に向け、調査に取り組んできた大東文化大(東京)関係者のオンライン報告会が12日、長沼地区地域活動センターで開かれた。二つのルートを設定した予約制のデマンド型タクシー運行といった提案があり、両地区は合同の検討委員会を組織するものとして具体化を図る意向になった。

### 大東文化大生ら オンライン報告会

両地区は、路線バスが1999年に廃止され、2000年から運行された旧町営バスも利用者の減少で廃止となって以降、公共交通の空白地域となっている。市は、地域まわりの未来事業の一環として同大に地域公共交通に関する調査を委託。阿部英之助社会学部准教授とゼミの学生が昨年、ワークショップやアンケートを行って、60歳以上の住民を対象としたアンケートを行って、後1〜3時を中心とした

報告会には住民や市の関係者など約30人が訪れ、阿部准教授とゼミの3年生3人がそれぞれの自宅から説明。デマンド型タクシー導入のアンケートでは、両地区とも回答者の約3割が「利用すべし」と答える一方、「分らない」が4割ほどあり、情報提供や呼び掛けが利用促進の鍵と指摘した。両地区は今回の調査結果と提案に基づいて運行計画の策定などを進める。市地域公共交通

ダイヤ編成として、三川町・余目(市内町)「藤島地域内・鶴岡市街地」の2ルートを曜日によって交互に運行する方法を提案した。

報告会は両地区の自治振興会と市が主催。当初は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い延期していた。両地区は今回の調査結果と提案に基づいて運行計画の策定などを進める。市地域公共交通



学生らが地域公共交通に関する調査結果をオンラインで報告した  
鶴岡市長沼地区地域活動センター

通会議での承認を得た後に運営協議会を設立し、来年2月にも実証運行を開始する方針。同大が利用状況の調査に当たる。

山形新聞 (2020年6月16日)

# 山形県鶴岡市 × 大東文化大学社会学部 阿部ゼミ

## 【デマンド型タクシーと空き店舗を利用した高齢者に優しい公共交通】

### 4. 提案① デマンド型タクシーの導入

#### 【提案理由】

過去に利用者の減少で公共交通が廃止となっている地域  
 ⇒利用者の有無にかかわらず毎日決まった本数が運行される方式よりも、住民の方から予約が入ったときのみ  
 に運行されるデマンド型交通（デマンド型タクシー）  
 が地域の特性に合っている。

#### 【利用促進に向けたアイデア】

- 運行の委託は、一般乗合旅客自動車運送事業の許可が有する「庄交ハイヤー」にお願いします。
- 「長沼・八栄島地区・地域公共交通住民意識調査」から導いた走行ルートの提案。
- 「長沼・地区八栄島地区・地域公共交通モニターテスト」による走行ルートの修正。
- 生活圏であるが近隣の三川町や庄内町への対策。  
 ⇒規制緩和を行い、鶴岡市外への乗り入れ利用者拡大

### 【住民意識調査から提案した走行ルート】



### 【モニター調査から修正した時刻設定】

	第1便	第2便	第3便	備考
往路（自宅⇒乗降場所）	8:00	9:15	12:30	長沼・八栄島（自宅）発の時刻
復路（乗降場所⇒自宅）	11:30	13:30	16:30	乗降場所発の時刻

往路第3便・13:00を12:30に変更、  
 復路の第2便・13:30に接続できるようにする。



山形県鶴岡市 × 大東文化大学社会学部 阿部ゼミ  
【デマンド型タクシーと空き店舗を利用した高齢者に優しい公共交通】

5. 提案② 導入後における利用促進の取り組み

【提案理由】

せっかく導入しても利用者数が少なければ、意味がない。持続可能な地域公共交通システムを構築する必要がある。

【利用促進に向けたアイデア】

- 周知・広報活動【パンフレット・チラシ・メディア】
- 利用促進の取り組み【自治会・敬老会など通した広報】
- 住民説明会と体験乗車会などの開催
- 免許返納割引や利用距離・回数に応じたポイント制の特典
- 「外に出ることが楽しいといった」の実感
- 電話やFAXより簡単な予約「アプリ」開発。
- 今後の単独夫婦世帯へのサポート
- 大東文化大社会学部・阿部ゼミによるアフターフォロー  
⇒利用者状況調査による改善提案を継続的に行う。

6. 提案③ 空き店舗を活用した地域住民の拠点化

【提案理由】

一昨年に閉店した「ふじしまふれあいセンター」デマンド型タクシーの乗降地の1つとし、新たに拠点づくりとする。

7. 提案④ 地域と大学との新たな交流のあり方

【提案理由】

コロナ禍の中での地域との新たな交流のあり方。

- Zoom活用で、現地に訪れなくても、現地との交流できるが、現地のことを肌身で感じることは、Zoomでは限界がある。
- Googleマップや地図アプリなど活用するが、学生のPCスキルから、限界もあり、ソフトを開発している会社からレクチャーを受けたい。
- 対面授業および学生による活動に対して委縮している大学を応援する企業との連携やサポートが欲しい。